

平成29年度

全国学力・学習状況調査

調査結果について

藤沢市教育委員会

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

平成29年4月、平成29年度全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

なお、国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 実施状況

(1) 調査実施日 平成29年4月18日(火)

(2) 実施項目 ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査 国語、算数・数学
主として「知識」に関する問題(A)
主として「活用」に関する問題(B)

(イ) 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する質問紙調査

学校を対象に、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備にかかる状況等に関する調査

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位：人)

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	質問紙
小学校6年生	3,629	3,628	3,629	3,627	3,627
中学校3年生	3,312	3,306	3,307	3,309	3,310

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位：%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国(公立)	74.8	57.5	78.6	45.9
神奈川県(公立)	73.0	57.0	77.0	46.0
藤沢市(公立)	71.0	56.0	76.0	44.0

全ての教科において神奈川県及び全国の公立小学校の平均正答率をやや下回っています。

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位：%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	77.4	72.2	64.6	48.1
神奈川県(公立)	77.0	72.0	64.0	48.0
藤沢市(公立)	77.0	72.0	64.0	48.0

全ての教科において神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率と同程度となっています。

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内にあれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

(出典：平成29年度全国学力・学習状況調査報告書 平成29年8月 文部科学省 国立教育政策研究所)

4 教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント

(1) 小学校 国語

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
<p>①漢字を正しく読むこと</p> <p>②俳句の情景を捉えることと、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること</p> <p>③目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えること</p>	<p>①漢字を正しく書くこと</p> <p>②目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと</p> <p>③物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること</p>

ウ 課題に対する改善の手立て

- ① 漢字を正しく書くことについては、繰り返し書いて練習するだけでなく、様々な場面で、漢字の持つ意味を考えながら使うことができるよう指導することが大切です。また、漢字を習得し、語彙を増やすためには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣をつけることが有効です。そのためには、辞書をいつでも使えるような環境を整える必要があります。また、国語の学習に限らず、各教科等で調べる学習や文章で表現・発表するような学習、さらには、日常生活の中で辞書を利用し、漢字を正しく表記できるよう指導することが効果的です。
- ② 目的や意図に応じて、自分の考えを話すためには、児童が自分自身や仲間のスピーチ発表について、構成や内容、話し方等、観点を明確にして振り返り、良い点や改善点を助言し合い、助言を基に見直すことができるよう指導することが効果的です。また、発表の際にスピーチメモを活用して話すことができるようにすることも有効です。まず、目的や意図に応じて構成や発表内容を工夫し、要点を短い言葉で順序立て、メモを作成し、そのメモを基に、話のまとめや順序を意識するとともに、相手の反応を見て話すことが大切であることを指導します。その際、相手の反応に応じて、別の言葉に置き換えたり、ほかの事例を加えたりする等、思考を働かせながら話すことができるよう指導することがより有効です。
- ③ 物語を読み、叙述を基に自分の考えをまとめるためには、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読むことが大切です。また、叙述と自分の経験や他者の解釈とを結びつけて読むことによって、物語をより豊かに想像することができます。意見交流の際に、「どうしてそう思うの。」と質問したり、相手の考えを聞いた上で、「〇〇さんの言いたいことはそういうことなの。」と質問することによって、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになります。発達段階に合わせて、高学年では、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容など、感動やユーモア、安らぎなどを生み出すすぐれた叙述に着目し、自分の考えをまとめることができるように指導することが効果的です。また、一つの場面だけでなく複数の場면을比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係づけたりして読むことが大切です。

(2) 小学校 算数

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
<p>①具体的な問題場面において、乗法に表し、計算をすること</p> <p>②(整数) × (小数) の計算において、常数を整数に置き換えて考えること</p> <p>③立方体の面と面の位置関係を理解すること</p>	<p>①加法と乗法の混合した計算をすることと、商を分数で表すこと</p> <p>②資料から、二次元表の合計欄に入れる数を求めること</p> <p>③仮の平均を用いた考えを利用し、測定値の平均を求めること</p>

ウ 課題に対する改善の手立て

- ① 加法と乗法の混合した計算をすることや、商を分数で表す指導に当たっては、具体的な問題場面と関連付けて理解することや、図を用いて説明をする活動が考えられます。その際に、答えがどのくらいの大きさになるのか見当をつける活動も効果的です。分数に関しては、整数の除法の結果は分数で表すことができることをくり返し確認することが有効です。
- ② 資料から、二次元表の合計欄に入れる数を求めるには、まず合計欄の意味を理解することが大切です。指導に当たっては、問題の中で調査をした人数と合計欄の数値とを比較する活動が考えられます。また、誤答を取りあげて、そのように判断した理由を話し合うことも有効です。
- ③ 仮の平均を用いた考えを利用し、測定値の平均を求めるためには、平均がどのくらいになるかを見積もったり、簡単にするために工夫して計算したりすることが大切です。指導に当たっては、測定値の結果をそのまま計算して平均を求める場合と、仮の平均を利用して平均を求める場合とを比較し、それぞれの良さを話し合う活動が考えられます。その際、グラフ、式、言葉などを関連付けて式の中の数の意味を確認し、説明することが有効です。

その他に、無解答の多さも課題として考えられます。手立てとして、普段の授業の中で、基礎的・基本的な問題を解いて終わらせるだけでなく、例えば必要な情報以外の言葉や数が入っている問題や、いくつかの学んだことを組み合わせるような問題を取り上げることが有効です。また、取り組んだことのない問題や難しいと感じる問題に出会ったときに、今まで学習した中で似たような問題を思い出して活用したり、簡単な数字に置き換えることで解決につながる見通しをたてたりする活動も有効です。さらに、集団で学び合う学習活動を日常的に取り入れるとともに、評価問題の中で一人ひとりが自力で問題解決できるかをみとることも大切です。

(3) 中学校 国語

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
①文脈に即して漢字を正しく読むこと ②語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと ③目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと	①文脈に即して正しく漢字を書くこと ②表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと ③相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと

ウ 課題に対する改善の手立て

- ① 文脈に即して正しく漢字を書くためには、学習した漢字を意識的に日常生活で使うことができるように指導することが大切です。その漢字の意味や成り立ちなどを踏まえて学習し、文章を読む際にも必要に応じて辞書を引くなどして、文脈の中でどのような意味でその漢字が用いられているのかを理解しながら読んでいくような指導も必要です。
- また、漢字学習の中で生徒自身が編や旁、似ている漢字などを考える学習を行うことも、興味を高め漢字を意識して使用することにつながり有効です。
- ② 表現の仕方について捉え、自分の考えを書くためには、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたのかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切です。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にしたり、感じたことや考えたことを具体的に説明したりすることができるように指導することが必要です。さらに、比喩や反復などの表現技法については、既習の知識を生かすように指導します。
- 日頃から文章を読んで、心に残った文章や感想をまとめておく等、文章に親しむことも効果的です。また、図書館だよりやポップ、書評などから得た情報を参考にして、自ら読書を進めていくことができるように指導することも大切です。
- ③ 相手に分かりやすいように語句を選択して話すためには、日頃から、話や文章の中で用いる語彙を豊かにしておくことが大切です。例えば、相手の反応を踏まえて、自分の伝えたいことが適切に伝わったかどうかを考え、必要に応じて分かりやすい語句に言い換えたり、複数の尋ね方を試してどれが最も分かりやすいかを検討したりする学習活動が考えられます。
- また、身近な話題等をテーマにして互いにインタビューし合う学習なども効果的です。相手に聞きたいことを明確にしてインタビューし合うことで、インタビューする立場だけでなく、回答者や評価者としての立場から振り返ることができるので、相手に分かりやすいように語句を選択して話すことについて、理解を深めることができます。

(4) 中学校 数学

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
<p>①平行移動した図形をかくこと</p> <p>②証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること</p> <p>③与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈すること</p>	<p>①関数の意味を理解すること</p> <p>②2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明すること</p> <p>③資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること</p>

ウ 課題に対する改善の手立て

- ① 関数の意味を理解するためには、まず、様々な事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの中にどのような関係があるのかを考察することが大切です。その上で関係性を説明する場面を設定したり、文章にまとめたりする活動を取り入れることが有効です。その際に、どちらが独立変数か従属変数なのか、違いを意識して捉えられるように、「～は～の関数である」という表現を使用することで知識の定着が図られます。さらに、一方の値が決まっても他方の値がただ一つ決まらないような関係も取り上げることで、関数の意味の理解を深めることができます。
- ② 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明するためには、事象の特徴を的確に捉えて、数学的に説明できるようにすることが大切です。四角形 ABCD が四角形 GBEF に回転移動し重なる場合の表現としては、回転の中心の位置、回転の方向、回転角の大きさが必要であることを明確にし、作図する場合など常にその説明としての文章表現をする活動が有効です。また、実際に紙の図形を動かして考えたり、コンピューターを利用して示したりしながら視覚的に捉え、辺や角の位置関係について確認したり、検討したりすることで理解を深めることができます。
- ③ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにするためには、資料の分布の様子を捉えて説明する場面や、問題解決のための方法を考察する場面を設定することが大切です。総度数が異なる2つの集団を比べる場合には、相対度数により各階級の比較ができることや、相対度数を使った度数分布多角形を用いることで資料の分布の特徴を把握しやすくなることを確認し、その特徴について根拠を明確にしながらか説明していく活動を設定することが大切です。また、実際のデータを収集し、整理、分析をすることで、資料の傾向を捉える活動も有効です。

5 児童生徒質問紙調査に関する調査結果の特徴と改善のポイント

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

(1) 特徴

	質問項目	児童	生徒
学習に関する 関心・意欲等	国語の勉強が好き	58.0%	54.7%
	国語の勉強は大切だ	88.4%	84.0%
	読書が好き	70.5%	67.6%
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	82.7%	77.4%
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	60.8%	57.1%
	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	72.3%	60.8%
	算数・数学の勉強が好き	61.1%	52.9%
	算数・数学の勉強は大切だ	88.8%	72.1%
	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	77.1%	70.2%
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	84.6%	61.8%
	「総合的な学習の時間」の授業では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	53.0%	59.7%
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.3%	93.3%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	77.4%	72.5%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	89.3%	88.4%
	平日、1日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する	57.0%	50.0%
	平日、1日当たり2時間以上、テレビゲームをする	34.9%	40.0%
	平日、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンの通話やメール、インターネットを利用する	13.5%	39.4%

学習習慣・ 学習時間	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	59.6%	47.5%	
	家で、学校の宿題をしている	95.4%	81.0%	
	家で、学校の授業の予習をしている	34.3%	31.3%	
	家で、学校の授業の復習をしている	36.9%	36.7%	
	平日に学校以外で 勉強する時間	2時間以上	30.3%	48.0%
		1～2時間	24.2%	25.1%
		30分～1時間	24.2%	12.0%
30分より少ないか全くしない		21.2%	14.7%	
学習状況	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	51.7%	47.8%	
	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	55.7%	56.3%	
	自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい	50.3%	60.5%	
	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	67.5%	73.4%	
	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	78.2%	64.0%	
その他	自分には、よいところがあると思いますか	76.8%	70.5%	
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする	78.7%	71.9%	
	学校に行くのは楽しい	84.7%	78.3%	

(2) 改善のポイント

「学習に関する関心・意欲等」については、国語、算数・数学について、「大切」だと回答した児童生徒は約72%～89%と高い割合となっています。しかし、大切だと考える児童生徒が多い結果にもかかわらず、「好き」であると回答した児童生徒は約53%～61%という状況です。児童生徒の学習意欲を高め、学習効果をあげるためにも、興味関心を持ち、児童生徒が「わかった」と実感をもてる授業づくりを行っていくことが大切です。

また、「総合的な学習の時間」の授業などで、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が低い傾向が見られます。児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう、学ぶ事に興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学びにつなげるような工夫が必要です。

「生活習慣」については、学力との関係の中で、良好であることが望ましいとされている朝食の摂取率について、約94%と高くなっています。しかし、1日2時間以上のテレビ等の視聴やゲーム、携帯やスマホ等の使用については、割合が高くなっており、特に、中学生の携帯やスマホ等の利用の割合が高い傾向にあるので、日常生活における情報通信機器等の使い方については、家庭へ啓発し、連携に努めるなど、改善につとめることが大切です。

「学習習慣・学習時間」については、平日に学校以外で勉強する児童生徒が多いにもかかわらず、学校の授業の予習や復習をしている割合は低くなっています。基礎学力の定着という観点から、与えられた宿題をこなすだけではなく、計画的に家庭学習にも取り組んでいくことができるよう「生活習慣」同様、家庭と協力して改善していくことが大切です。

6 考察

今回の調査結果の成果として、国語では「漢字を文脈に即して正しく読むこと」や「俳句の情景を捉えること、ことわざの意味を理解し自分の表現に用いること」、算数・数学では「具体的な問題場面において、乗法に表し計算すること」や「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること」について、良好な結果が見られました。基礎的・基本的な知識や技能については、概ね理解できていることがわかりました。

課題として、知識に関する問題では、「漢字を正しく書くこと」や「相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと」「計算することや商を分数で表すこと」「関数の意味を理解すること」などに課題が見られました。また、記述式の問題形式には無解答率が高い傾向が見られました。これらの傾向は、ここ数年間の調査結果においても同様の傾向が見られます。改善のためには、これまでも取り組んできた授業の中での反復練習に加え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からも、具体的な場面と関連付けながら考えたり、説明したり、文章にまとめたりする場面を設定し、児童生徒同士の話し合い活動を通して考えを深めていく学習を充実させていく必要があります。その他にも、児童生徒自身が「自分はどこが分かっていて、どこが分からないか」といったことを自覚できるよう、学習活動の振り返りを積み重ね、次の学びにつなげていくことが大切です。

活用に関する問題では、国語の「表現の仕方を捉えて、自分の感じたことや考えたことを書くこと」や「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめること」、算数・数学の「仮の平均を用いた考えを利用し、測定値の平均を求めること」「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」などに課題がありました。この課題については、思考力・判断力・表現力を身につけていくための活用学習のあり方を見直す必要があると考えています。改善のためには、教師が「何を教えるか」という学習内容を重視した授業から、「学習を通して何ができるようになるか」という視点での授業づくりが必要です。具体的には、基礎的知識の習得に加え、身についた知識を実際の生活の中で活用する学習場面を増やしたり、意見交流を通して自分にはない考えに気づいたり、それぞれの良さを実感できたりするような授業展開の工夫が必要です。その際、考えたことを文章にしたり発表したりする活動を多く取り入れ、児童生徒が表現する力をより一層高められるように配慮していくことが重要です。

また、小学校では、記述式の解答問題において、無解答の割合が高い傾向が見られました。一見、難しそうな問題や、児童が取り組んだことがないような問題に出会った時、今まで学習した中で似たような問題を思い出して活用したり、簡単な数字に置き換えることで解決につながる見通しを持てたりすることを実感できるように、日々の授業の中で指導していくことが大切です。

次期学習指導要領では、児童生徒が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が重視されています。日々の授業づくりにおいては、まず、児童生徒一人ひとりの学習状況を的確に捉え、授業の目的を明確にし、どの子にも「わかる授業」としての指導方法を工夫する必要があります。また、児童生徒が、授業以外の場で自ら学習を進めることができるよう、そのきっかけとなる課題を与えたり、学習方法を丁寧に教えたりする等、補充的学習や発展的学習を含め、一人ひとりの状況に応じて指導していくことが大切です。

7 今後の教育活動に向けて

(1) 教育委員会における今後の取組

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知するとともに、教育委員会のホームページで公開し広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、引き続きの課題が見られることから、改善に向けた工夫や取組の必要性を学校に対して働きかけていきます。

ウ 基礎的基本的な知識技能の定着に向けて、一人ひとりにきめ細かな支援等を行う「支援教育」の考え方にに基づき、各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導主事による「わかる授業づくり」の指導を行います。

また、教員のキャリアステージごとに経験者研修を実施するとともに、指導主事や学校人材育成支援員による教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ 教育文化センターにおいて、「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、授業力向上にむけたスキルアップを図ります。

オ 好ましい生活習慣の確立は、学力と密接な関係があることから、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、テレビやゲーム、携帯電話等は時間や約束を決めて使用することや、与えられた宿題をこなすだけでなく、計画的に家庭学習に取り組んでいけるよう、保護者に向けて、家庭での時間の使い方について改善していくよう働きかけを行います。

(2) 学校における今後の取組

ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ 児童生徒への調査によると「国語や算数・数学が好き」「学んだことは生活の役に立つ」という意識が低い傾向にあります。すべての児童生徒にとって分かりやすい、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを工夫し授業改善を図るとともに、学習したことが実生活の中でどのように活かされているのかが実感できるような学習展開を工夫し、興味関心を高めていきます。

ウ 「総合的な学習の時間」の授業などで、自分で課題を立て、調べたことを発表する等の学習活動に取り組む児童生徒の割合が低い傾向が見られます。各教科や総合的な学習の時間などを使い、自ら課題を設定し計画を立てて取り組む学習や問題解決学習、体験学習、言語活動などを意図的・計画的に取り入れ、児童が主体的・対話的に深く学ぶ機会を増やしていくことにより、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。

エ 家庭と連携しながら、自ら計画を立てて予習復習を行う学習習慣の確立や生活習慣の改善に向けた取組を行います。

保護者の皆様へ

児童生徒質問紙の内容から、学習習慣や生活習慣について、家庭において取り組むべきことが見えてきました。

○学習習慣について

基礎学力の定着のためには学校での学習を行うだけでなく、家庭での学習が必要です。家庭学習の際には、教科書を基にした学校の授業の予習、復習を取り入れるよう、お子様にお声かけください。

○生活習慣について

日々の充実した学校生活の基盤として「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣が大切になります。朝食の摂取率については、良好な結果がみられました。今後も、基本的な生活習慣の定着に向け、ご協力をお願いします。

また、放課後の時間の使い方について、テレビやビデオの視聴、ゲームやスマートフォンの使用にあてる時間の長いお子様が見られます。家庭での時間の使い方について、話し合ってみてください。